

救急の日によせて 広報げろ 2010.9

救急の日によせて

◎下呂市内では急患が発生し救急車を要請すると、北、中、南の消防署の中でより近い救急隊がやってきます。その間、その消防署の救急車はいなくなり他部署の救急隊がカバーすることになります。そのため新しく救急の要請があると救急車の到着に時間を要することもあります。

◎市立病院でも、より専門的治療が必要で高次の病院へ救急搬送しなければならないことがあります。市立病院では下呂病院への搬送は南消防署の救急車を要請しますが、下呂市外の病院への搬送は次のように定めています。ドクターヘリが飛べる時はドクターヘリを要請します。この場合搬送される病院は病状や受け入れ態勢によって岐阜大学病院か岐阜ハートセンターになります。原則として患者、家族のご希望にはお応えできません。病院がヘリ搬送を積極的に取り入れるのは、高次病院までの搬送時間が著明に短縮され、地域に住んでいてもいざという時、より早期に都市と同じ高度医療が受けられるからです。ドクターヘリは岐阜県の防災ヘリが受け入れ病院の医師を乗せて東沓部のヘリポートまで飛んできます。市立病院からヘリポートまで救急車で搬送し、搬送先病院までの所要時間は合計 30 分以内です。市立病院の医師が添乗する必要はありません

◎搬送時に困るのは患者の治療歴などの情報がないときです。持病があつて市外の病院で治療を受けておられる場合は、急変に備えて、いざという時に駆け込まなければならない市内の病院に一度は情報提供書や、紹介状などを持って受診していただき、病院に治療内容を残しておいていただけると大変助かります。

◎夜間や、天候によっては昼間でもヘリは飛べません。この場合は救急車による搬送になります。市外の高次病院への搬送は一時間以上かかり、往復で三時間以上かかります。その間は管轄内に救急車がないことにもなりかねません。

◎病院が救急車で患者を搬送する場合は搬送時の急変に備えて医師の添乗が原則となっています。しかし、病院の医師が添乗するとその間病院の医師が手薄になり診療に差し支えます。また夜間は当直医が一人なのですぐには搬送できないこともあります。このため夜間や日曜、休日は昼間も医師がもう一人拘束、待機態勢をとっていますが、医師不足の中これが医師の大きな負担になっています。

◎急変の危険性がないけれども病院側の都合などで主治医が必要と判断した場合、連携する病院へ搬送することがあります。この場合は病院の患者搬送車で搬送します。費用は病院の負担になります。主治医が転院の必要がないと判断しても患者が転院を希望した場合は患者自らが患者輸送車を手配していただくか、実費で病院の患者搬送車を利用できます。いずれも救急車は使えません。

◎下呂市の救急体制は万全ではありません。限りある救急体制の中で活動するスタッフにご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

下呂市立金山病院 院長 古田智彦